

四九

猿著聞集

卷

猿著聞集
卷一

八島定岡先生者



猿著海集

浪華書肆

抱玉堂藏

あまのこころ

○附言

○此書さうりぐらたてものてそらまびびくぬことなゆことよ
 のしつはしるしつゆおのむびんかちまうまう画くまう
 しゃんじちのむすまふぬのたまのしやまのびもまう文章
 ちやまうて雅言ふそものむぬことなまうまういんげん
 人のえ玉ふと死なまうたことどもあやうめりて人のあひ
 猿智恵の猿がそら猿著聞人の作とまおのひ玉ひと
 ておをとかんるのしひまはんとおらうまうまうがた死
 せいひんてかつげや

定岡平てまうま

一より著者のん

本ハ



燈光半點左窓下懸机頭
 魚一書書籍并魚灯并躰
 標找加復欠三餘 岳亭頭

壹之卷目錄

- 花成君はななりと石いしふやどり玉たまひひ事こと
- 唐から店みせ病びやう者ものをのきこめめ事こと
- 梅うめ男をとこ哥うた上のうへをのここめめ心こころをまわらせし事こと
- 一いつ鉢はちとの僧そう川がはの中なかでは法はふをとりし事こと
- 國くに三さん道みち小このよひひては狼おおかみ小こ出であひ事こと
- 折ま兼か山やま小こ獵かりしては天てん狗いぬ小こあひ事こと
- 数かず守もり山やま家か小こ時とき鳥とりとを待まち事こと
- 龜かめ良よし親おや小こ孝かう行ぎやうのこと
- 唐から店みせ時とき鳥とりの初はつ音ねとを玉たま産うせし事こと

さる著者の

目一

- 千ち僚りょうが哥うた小こようては賤しやの女め返かへ哥うたの事こと
- 志し店みせ師しののと茶ちやとを哥うたとを贈あづりし事こと
- 市いち丸まる山やま家か梅うめ見み行ぎやう事こと
- 梅うめ男をとこ聖せいの日ひ友ともみ代たりて哥うたとをここ事こと
- 頼たの房ぼう盜とう賊ぞく小こ珊さん瑚こ珠たまをとりし事こと
- 万ま守もり松まつ原はらとをあやし死し男をとこ小こ出であひ事こと
- 草くさ浪なみ山やま中なか小こあやし死し命いのちをあいたりし事こと

二之卷目錄

- 赤あか岩いそ庚かう申しん山さんの事こと
- 足あし尾を村むらの何なにが子こ山やま小こ入いては猿さるあらりし事こと

- 香取の浦大亀の事かとりうらうらふかめ
- 火の王空中を飛ひのうらちまちう一車いっしや
- 大尋津が巽奇狐の事おほのじんづがさききつこ
- 白川の何が家の幽霊の事あらかのなにがいのうりやの
- 千曲川出水の後鬼火の事ちまがわいづみのおにび
- 一目連出現の事いちめんのうけん
- 春人地震お母をおひて奇詠の事はるひとぢしんおははちをうらよめ
- 生井村おて鯉教子をとり事なまゐむらおてこいさせん
- 愚直ぐちやく直ちやくるる老婆が事らうは
- 飯室何いひむろなにがの家のまづいが事が

さるまのりん

三豆巻目録

- 須々木何すずきなにがの妻つま多おほの返夏かえなつの事こと
 - 且平朝ぢへいあさ寐ねを好このむ事こと
 - 正平朝しやうへいあさ寐ねをこのむ事こと
 - 素す喜き女によをおひて川かをとりし事こと
 - まいら女によを見みることる事こと
 - 丸雄まるお兼かね合あ舟ふねおて女によを見みる事こと
 - 堀川ほりがわお住おすま女によ髪かみ皓しろ男おとこをとりし事こと
- 三豆巻目録
- 春豆はるまめある御ご飯いひめて奇うよよる事こと
 - 米成よみなり一首いっしゆの奇うよよる事こと

- 裏行通ひ小町の澹舟あはれ舟こまちよそと事
- 猿羽君ある公羽の哥わたりよむを悟り玉ひ事
- 西東仁心の事
- 松年入の難まろととくひ事
- 歌志久蛙とととけ事
- 唐唐山路小狸かろとととけ事
- 歌志久古狸うとと殺せ事
- 集康狐のりみまやまとと事
- 玉敏糸夢さるめて玉とと事
- 真砂子夢まめて哥さとと事

さる昔のん

四之巻目録

- 石竜神せりゅうじん靈験れいげんある事
- 賑立立間の島小哥あはれとと事
- 万守長柄まもりながはのやととと事
- 打安茶店うちやす小萱笠こあしとと事
- 空濶道中そらひろ毎日まいにちかけある事
- 正平しょうへいあら裸はだかめて古郷ふるさとふかじ事
- 莫辨まべん深夜しんや松原まつはらふかじ事
- 百朶鹿ももつたのこゝろ声を聞き事
- 四大声よちだいこゝろめて哥うたとと事

- 吉住小ぶぶの事
- 連樹菴の声色をつかふ事
- 泉わぶを四民先生との事
- 飲居老若の文字講釈の事
- 升轉酒多ひて坊主ふるふる事
- 筆との娘坊主ふる事
- 兼康心寛る事
- 元有心優る事
- 三逕との僧の事
- 菊泉養老山中の碑を立事

よる著のえ

目四

五之巻目録

- 三子九歳めて哥よむ事
- 昔婦山吹の哥よむ事
- 調古郷をわめて哥よむ事
- 小聖伊勢めて哥よむ事
- 吉枝由良の湊子哥よむ事
- 田雀末の松山小藤の哥よむ事
- 台笛花を惜めて哥よむ事
- 和琴守が聖の哥小米つ死男が怒り事
- 兼康を食ふ金をやり事

- 数守好色の老女小哥よみて贈り事
- 千霞吝惜の人小哥よみて贈り事
- 濱風人小頼とて哥よみて事
- 吉住人の悪き夢見一を哥よみて祝事
- 西東家の前小夫の死るを哥よみて祝事
- 兼康太とめて身をあうめ事
- 斎藤何ぐが家の田舎人の事
- 男浪團子を喰まて逃事
- 長人温泉小女のあらしひを見事
- 千徐哥よみて存女と客人中をやらむ事

さる昔のん

目五

- 茂登輔存女小哥よみて贈り事
- 春重哥よみて女の不義まかて事
- 花成君哥よみて家士の放蕩を止させ玉事
- 百合丸中納言貞直卿小御哥を願ひ事
- 目録終

うちへてくまのののりて何ぞぞとまか何まの寺僧そうやまひか
かつめいの人まののまじもてまののち今まもまのいんちねうん
師しのひいびりえまもまのいんちねうんちねうんちねうん
こーかねてあしむ人かまもまのいんちねうんちねうん
ておぢうらちひおれをまじりててまのいんちねうん
あつせんとまのいんちねうんちねうんちねうんちねうん
をあつていんちねうんちねうんちねうんちねうんちねうん
りうのちまかつていんちねうんちねうんちねうんちねうん
あつてめちちまのいんちねうんちねうんちねうんちねうん
えれを笛吹ふえふ川のまのいんちねうんちねうんちねうんちねうん

たの書ゆえ

〇五

上るる木をめてひたうてつ外たのつづねてつづねて身まをま
まづ川がのちつづねてつづねてつづねてつづねてつづねて
んちねうんちねうんちねうんちねうんちねうんちねうん
て田よ方をまのいんちねうんちねうんちねうんちねうん
まじりて月まもまのいんちねうんちねうんちねうんちねうん
僧そうのちねうんちねうんちねうんちねうんちねうんちねうん
かまのちねうんちねうんちねうんちねうんちねうんちねうん
らちのちねうんちねうんちねうんちねうんちねうんちねうん
子こ何なに人ひとのちねうんちねうんちねうんちねうんちねうんちねうん
まじりて師しのちねうんちねうんちねうんちねうんちねうんちねうん

あけてをきめては宛春小うぶひまののろひ宛茶をおゆらせ
ぞとよまのまてちつろをばが師もよかあの一ろかりて又とてを
あやうつとよの宛てあふまよとよのゆるのつゆあまのたはじま
てのちよるまよとよのまをの宛てとてちつて

あけてをきめては宛春小うぶひまののろひ宛茶をおゆらせ
ぞとよまのまてちつろをばが師もよかあの一ろかりて又とてを
あやうつとよの宛てあふまよとよのゆるのつゆあまのたはじま
てのちよるまよとよのまをの宛てとてちつて

あけてをきめては宛春小うぶひまののろひ宛茶をおゆらせ
ぞとよまのまてちつろをばが師もよかあの一ろかりて又とてを
あやうつとよの宛てあふまよとよのゆるのつゆあまのたはじま
てのちよるまよとよのまをの宛てとてちつて

茶の著のし

〇十田

あけてをきめては宛春小うぶひまののろひ宛茶をおゆらせ
ぞとよまのまてちつろをばが師もよかあの一ろかりて又とてを
あやうつとよの宛てあふまよとよのゆるのつゆあまのたはじま
てのちよるまよとよのまをの宛てとてちつて

あけてをきめては宛春小うぶひまののろひ宛茶をおゆらせ
ぞとよまのまてちつろをばが師もよかあの一ろかりて又とてを
あやうつとよの宛てあふまよとよのゆるのつゆあまのたはじま
てのちよるまよとよのまをの宛てとてちつて

〇市丸山家へ梅見おゆく事

このく今尾の里お渡邊市丸あつと宛て山里の梅おゆ宛
ところおちつりの人のあつと宛て梅まら花見おこん花さうへむうへ
おぬらまらとてちつろをばが師もよかあの一ろかりて又とてを
あやうつとよの宛てあふまよとよのゆるのつゆあまのたはじま
てのちよるまよとよのまをの宛てとてちつて

